

## 令和元年度 第3回 地方独立行政法人長野市民病院評価委員会 議事録

1 日 時 令和元年 10 月 31 日（木曜日） 午後 2 時から午後 2 時 35 分まで

2 場 所 長野市民病院 2 階 会議室 4・5・6

### 3 出席者

（出席委員）

中山 淳 委員長  
小口 壽夫 委員  
小林 邦一 委員  
坂口 直子 委員

（委員以外の出席者）

池田 宇一 （地方独立行政法人長野市民病院理事長）  
宗像 康博 （ 同 副理事長）  
松本 孝生 （ 同 理事）  
内山 詞恵 （ 同 院長補佐）  
渡辺 敏明 （ 同 経営企画室企画課長）  
福島 孝志 （ 同 総務人事課長）  
大内 規生 （ 同 経営企画室企画課係長）  
小林 沙織 （ 同 経営企画室企画課主査）

（事務局）

樋口 圭一 （長野市保健福祉部長）  
小林 雅裕 （長野市保健福祉部医療連携推進課長）  
相澤 優充 （ 同 医療連携推進課長補佐）  
松嶋 和彦 （ 同 医療連携推進課係長）  
立山 晴樹 （ 同 医療連携推進課係長）

### 4 議 事

(1) 中期目標期間の業務実績評価に関する意見書（案）について

- ・ 中期目標期間業務実績評価 審議結果一覧 【資料 1-1】
- ・ 第2回評価委員会における主な意見 【資料 1-2】
- ・ 地方独立行政法人長野市民病院の第1期中期目標期間  
業務実績評価に関する意見書（案） 【資料 1-3】

(2) 答申（案）について

- ・ 答申書（案） 【資料 2-1】
- ・ 地方独立行政法人長野市民病院の平成30年度業務実績評価 【資料 2-2】

に関する意見書（案）

○ 開 会 午後 2 時

（事務局）

ご案内の時間となりました。委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

本日は、岩野委員と柳原委員がご都合により欠席されておりますが、地方独立行政法人長野市民病院評価委員会条例第 7 条第 2 項の規定で定める定足数を満たしておりますので、ただいまから、令和元年度第 3 回地方独立行政法人長野市民病院評価委員会を開催させていただきます。

本日の会議につきましては、午後 3 時頃の終了を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の委員会につきましては、公開で行い、議事録調製のため、録音させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

はじめに、中山委員長からご挨拶をいただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

（中山委員長）

まず、このたびの台風 19 号で被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧を心より祈念しております。

さて、本日の評価委員会でございますが、本年度最後となります。前回、前々回の評価委員会と同様に、有意義なご審議をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。次に、議事に入ります前に、前回第 2 回の評価委員会議事録の確認をしたいと思います。事前にお送りしてございます議事録につきまして、何か修正事項等ありましたら、お願いいたします。

<修正意見なし>

（事務局）

それでは、第 2 回評価委員会議事録については、決定とさせていただきます、市ホームページにおいて公開をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、このたびの令和元年台風第 19 号に伴う長野市民病院の対応状況等につきまして、長野市民病院からご報告を申し上げます。

（長野市民病院）

対応状況等について説明

（事務局）

これより、会議事項に入らせていただきます。

評価委員会条例第7条第1項の規定により、委員長が議長となりますので、ここからは中山委員長に議事の進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(中山委員長)

それでは、(1) 中期目標期間の業務実績評価に関する意見書(案)について、事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

#### 資料1-1～3について説明

(中山委員長)

ありがとうございました。ただいま事務局からご説明のありました、中期目標期間の業務実績評価に関する意見書、現時点での案でございますが、ご質問・ご意見等がありましたらお願いいたします。

(小林委員)

これまでに3回評価をやってきて、留意しなければいけないことが出てきました。例えば、当初に立てた目標に対して、現状がどうなっているのか評価するときに、他の状況がこうだからということで、評価の尺度を変えてしまうことがどうなのかという問題がありました。こういう基本的な評価の考え方について、今後どうしていくのかということが一つ。

もう一点は、定性的なものが比較的多かったわけですね。定性的なものも必要ですが、それを具現化するとこういう数値になるというものが必要だと思います。そういうものがないと、結局、結果が出たときにどういう評価をしたか分からなくなってしまいます。客観性があまりないことになってしまいます。目標に向かっていく人たちにとっても、掛け声だけみたいな話になってしまうので、目標がよく見えないという話になってしまいます。そこらへんがこれからの改善すべき点ではないかと思います。

それと、もう一つ、意見書(案)の総括事項のところ、3年連続黒字決算でも目標値には及ばなかったが、本業の経営指標である医業収支比率が改善していることから、目標を概ね予定どおり達成したとあります。医業収支比率が病院にとってのものすごく重要な指標であれば、それを目標として堂々と出していくべきだと思います。そういうものを今後の目標設定のときにどうするのかということをごどこかに書いておかないと、また同じことを繰り返してしまうような気がします。今後検討していただいて、共通認識にしておかないといけないと思います。

(事務局)

ご意見として承りました。ご意見については、この後ご審議いただきます、答申書の中で、委員からのご意見ということで付け加えさせていただきました。先ほどの相対・絶対、定性・定量という部分については、病院自体の評価というよりは、評価の仕方、むしろ事務局側の問題にな

りますので、意見書の案文の中には含めずに、答申書のほうに含めさせていただいたということ  
でございます。

(小林委員)

目標管理の手法の改善ということです。

(中山委員長)

今回の意見書の案に関しては、修正事項はなしということによろしいですか。

(小林委員)

結構です。どこかに残しておかないとそのままになってしまわないかということが心配だった  
ので申し上げました。

(中山委員長)

他にいかがでしょうか。

(小口委員)

いろいろな公立病院の評価に携わって、長野市民病院がお手本になっているとされていて、市  
民病院の後追いでやっていけば他の病院もよくなってくると思っています。医業収支については、  
すごく大事だと思っています。新公立病院改革プランでは、経常収支が黒字になればいいという  
ことになっていますが、実際にはそうではなくて、小林先生が言われたように、医業収支を追っ  
ていくということを是非この病院でやっていただければと思います。

(事務局)

今後の検討の中で、何を目標として優先していくか考えを深めながら議論を進めていきたいと  
考えております。

(小林委員)

病院の目標管理をしようとしていますので、病院の皆さんが一生懸命頑張ってもそれと関係の  
ない要素はあまり目標に入れるべきではないと思います。例えば、黒字かどうかということは、  
繰入金のさじ加減一つでどうにでもなってしまうわけで、それを減らしてダメだと言われても病  
院の皆さんは納得いかないと思います。病院の皆さんが努力した結果が反映されるような指標が  
一番いいと思います。

(市民病院)

小林委員から、医業収支比率を目標にという意見がございましたが、既に医業収支比率は目標  
値として設定してございます。意見書(案)の10ページの下の方に、指標に係る目標と実績とい  
うことで記載がございました。各年度とも医業収支比率は目標として追ってまいりましたので、徐々

に上向いてきているということで、意見書の中でも一定のご評価をいただいております。

(中山委員長)

他にご意見はよろしいでしょうか。よろしければ、この案を当委員会から市長あての意見書としたいと思いますがよろしいでしょうか。

(一同承認)

(中山委員長)

ありがとうございます。

では、次の(2)答申(案)につきまして、事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

資料2-1～2について説明

(中山委員長)

ありがとうございました。ただいま事務局からご説明のありました、答申(案)につきまして、ご質問・ご意見がありましたら、お願いします。

先ほど小林委員からいただいたご意見については、付帯意見として記載されているということですね。

よろしいでしょうか。

(一同承認)

(中山委員長)

ありがとうございました。それでは、平成30年度の業務実績評価、並びに中期目標期間の業務実績評価につきましては、本日ご決定いただきました意見書を評価委員会からの答申として後日、市長へ提出したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上で、本日子定しました審議事項が終わりました。

全体を通して、委員の先生方から何かありますでしょうか。

(意見なし)

それでは、以上をもちまして、本日の議事は、すべて終了しました。円滑な議事進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。

「4その他」といたしまして、事務局から今後の予定につきましてご説明申し上げます。

(事務局)

本年度の評価委員会で予定していた審議事項は、今回をもちまして終了となります。来年度の委員会につきましては、6月以降の開催を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

(事務局)

最後に、本年度最後の評価委員会になりますので、樋口保健福祉部長から委員の皆様にご挨拶を申し上げます。

(樋口保健福祉部長)

保健福祉部長の樋口でございます。本年度最後の評価委員会でございますので、一言お礼のご挨拶を申し上げます。

はじめに台風第19号災害の関係でございますが、これで半月が経とうとしております。本日お集まりの皆様の中でも、ご自身が被災された方、お身内、同僚、友人が被災された方がいらっしゃるかと思います。心よりお見舞いを申し上げます。今回の災害では、市の北部がクローズアップされておりますが、南部でもかなり被害が発生しております。広域にわたり被災し、今なお750人を超える被災者が避難所での生活をされているということで、今後収束に向けた道筋がなかなか見えてきていないという状況でございます。市としましても、国・県、県内・県外の自治体、企業、NPO、ボランティアなど多くの皆様の応援、ご協力をいただきながら、全力で対応に当たっているところでございます。完全な復興、復旧には、年単位の長期にわたる取組が必要になるのではないかと考えているところでございます。この間、市民病院をはじめ、県内医療関係の皆様方にも避難所対応をはじめ、様々なかたちでご支援をいただき、被災者の救命救急、健康管理等大変ご尽力をいただきましたことに心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。長期化する中で、今後も引き続き、何かとご協力いただく場面があるかと思いますが、よろしく願いいたします。

さて、当委員会ですが、3回にわたる慎重審議を経まして、長野市民病院の業務実績に対する意見書を取りまとめでいただき、本日ご決定いただくことができました。後日、市長に答申をいただくわけでございますが、今後この答申内容を尊重して、必要な対応を進めてまいりたいと考えております。改めて、中山委員長をはじめ、委員の皆様のご尽力に対しまして、心から感謝を申し上げまして、お礼のご挨拶といたします。誠にありがとうございました。

(事務局)

以上をもちまして、令和元年度第3回地方独立行政法人長野市民病院評価委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

○ 閉 会 午後2時35分